

「ベトナム派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 高比良 睦

ベトナム国家大学サマースクールの二週間のうち、最初の一週間は人文社会大学、後の一週間は外国語大学に行き、ベトナム語の授業を受けたり、ベトナム人学生の受講する授業に参加したりした。ベトナム語の授業は、一つの文法事項につきたくさん例文を取り上げて実際に話してみるなど、実生活に役立てやすい形で勉強できたのがとても良かった。休日には、ベトナム人学生にハノイ旧市街等様々な場所に連れて行ってもらうなど、たくさんベトナム人学生と交流する機会があった。

平日の学校や休日出かける際にベトナム人と交流していて一番印象的だったのは、皆日本語がとても上手であるということだ。私たち京都大学から派遣された学生はベトナム語を学び始めたばかりであって、ベトナム語でコミュニケーションを取るのが難しかったため、ベトナム人の学生たちはいつも日本語で話かけてくれた。迎えてくれるベトナム人が日本語で話しかけてくれるのに、ベトナム語が全然話せない自分をもどかしく思った。また、人文社会大学や外国語大学では、ベトナム人学生が日本語を学んでいる授業にも参加したが、そこでは日本語を学び始めてまだ2年目という学生たちと日本語で会話をした。私も第二外国語であるドイツ語を学び始めて2年目になる。ドイツ語を使って会話をできるだろうかと考えたが、それはとても難しいことだと思った。もちろん読むことを中心に勉強していたり会話を重視していたりする等の違いはあるかもしれないが、ベトナム人学生たちは、日本語を学ぶ意欲がとても高いと感じた。私はその姿勢を見習わなければならないと思った。普段の自分を見つめ直す良い機会になった。話を聞いていると、日本語を学んでいるベトナム人学生の中で、日本でまたは日本企業で働きたいと考えている学生が多かった。このように将来したいと思っていることに直接関係があるからこそ、勉強に積極的に取り組むことができているのだと感じた。私も、いま学んでいることが活かせるような進路を見つけてそれに向かって努力していきたい。休日には、一度歴史博物館に連れて行ってもらい日本語で解説してもらったことがあるが、ベトナム語の展示では理解できなかったことも話してもらえて知ることができた。また、直接話を聞くことでより楽しむことができた。このことから、改めて言語の大切さを感じた。日本語は世界で見ると主要な言語ではないし、日本の歴史や文化に興味を持ってもらいたい、伝えたいと思った時、ベトナム人の学生がそうしてくれたように、私たち日本人側が努力しなければならないと思った。私は今回ベトナム人の学生たちにしてもらったように、日本と外国の人をつなぐ役割ができたらと考えるようになった。